

平成 29 年 9 月 23 日 福岡県うきは市発

平成 29 年九州北部豪雨災害～復興にむけて

## 「つなげよう！福岡・大分」

(報道各社への取材の御案内)



▲ 朝倉市・東峰村・日田市に連なる山に向かい走る久大本線の列車

～実物大模型のモデル「ディスカバリー」に搭乗した宇宙飛行士ゆかりの地～

### スペースワールド閉園後の“スペースシャトル”の行方に注目

今年末で閉園するスペースワールド（北九州市）は昨日、スペースシャトル「ディスカバリー」の実物大模型を 10 億円で譲ると発表した。最終日の花火イベントの資金集めの一環という。



1986 年 1 月のスペースシャトル「チャレンジャー」爆発事故で殉職した宇宙飛行士エリソン・オニヅカ氏（ハワイ島生まれの日系三世）は 1985 年 1 月「ディスカバリー」に搭乗し、日系人初の宇宙飛行に成功した。うきは市浮羽町出身の祖父母をもつ同氏は 1983 年、先祖の墓参に訪れた際の浮羽中学校での記念講演で「夢に向かって努力しよう。きっと夢はかなえられる」と語り生徒達に勇気を与えた。市内では郷土ゆかりの宇宙飛行士の偉業を語り継ごうと没後 10 年・30 年に慰霊式や記念行事を開催、1996 年に地元で架け替えられた橋は「エリソン・オニヅカ橋」と名付けられた。



エリソン氏を語り継ぐ会の関係者らは、閉園後の実物大模型の行方に早くから関心を寄せていた。

昨日の発表を受けて関係者の一人は「(実物大模型の) スペースシャトルはスペースワールドのシンボルで、エリソン氏を語り継ぐ自分らにとっては特別な親近感もある。譲渡先が見つかってレガシーとして受け継いでもらえれば」と今後の活用に期待を寄せている。



▲オニヅカ橋の親柱には陶板写真、欄干にはスペースシャトルのレリーフが飾られている。

送信：うきは市総務課広報係 Tel.0943-75-4980 ※市ホームページにカラー版を掲載 検索

2017. 9. 23 発表／ディスカバリーに搭乗した宇宙飛行士ゆかりの地～スペースワールド閉園後の“シャトル”の行方に注目